

◇コラム 3 黒髪山由来

大仏鉄道最大の難所と言われた黒髪山で、列車が越せるようにするトンネルが掘られた。それが『黒髪山トンネル』で、トンネルの長さは86mであった。別場所に線路下に人道や水路を通すためのトンネルは数多く造られたものの、列車を通すためのトンネルは大仏鉄道ではこの黒髪山トンネルが唯一であった。

黒髪山は、その名前の由来と伝わる 伝承 11代 垂仁天皇（前29年から後70年）の妃・狭穂（さほ）姫の伝説の地である。伝説上の話であるが、従兄弟にあたる垂仁天皇の妃であった狭穂姫は、皇位を目論む同母兄の狭穂彦から垂仁天皇の暗殺を謀るよう命じられたが、狭穂姫は夫である天皇を殺すことが出来ず、謀反の計画が露見することになる。世に言う『狭穂彦王の叛乱』として語られる事件となった。

天皇は狭穂彦討伐の軍を出すも、狭穂姫は兄の狭穂彦に帯同することになり、愛する妃のいる狭穂彦陣を天皇は攻めあぐねていた。天皇の子をすでに身籠もっていた狭穂姫は、狭穂彦の陣であった稲城（いなゆぎ、稲わらを積んで造った仮城）の中で誉津別命（ほむつわけのみこと）を出産。天皇は姫と皇子を連れ出そうとするが、姫は天皇方の勅使に皇子を託して、追っ手から逃げるため自らは黒髪を剃り上げ山に埋め、古い衣をまとって兄と共に逃げたとも、燃え上がる稲城の中でその生涯を終えたとも古事記、日本書紀に伝わる。

稲城の故事から五穀をつかさどる御食津神^{みけつかみ}が招請され、稲荷社が祀^{まつ}られるようになったと伝えられている。かつて佐保村があり、東大寺転害門から西方、法華寺までが佐保路と言われている。狭穂姫の名が残り、小さな寺や神社御陵があり寂しい地域になる。



図-1 黒髪山トンネル 1966(昭和41年)年まで道路として利用

参考文献

- 1) 宮内庁 HP, <https://www.kunaicho.go.jp/about/kosei/keizu.html>
- 2) 吉重丈夫著：『皇位継承事典』(PHP エディターズグループ、2019.2)
- 3) 狭穂姫命：Wikipedia、<https://ja.wikipedia.org/wiki/>
- 4) 奈良県立図書館 IT サポーター：黒髪山トンネル，奈良市街北部，奈良の今昔写真 WEB,<https://www.library.pref.nara.jp/supporter/naraweb/syasinweb.html>

(文責： 清水文夫)